第６回　観光振興審議会（令和７年３月 19 日）

【事務局】

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。八戸市観光課の古川と申します。ただいまより第６回八戸市観光振興審議会を開催いたします。

本日の資料の確認に入りたいと思います。

・次第

・席図

・八戸市観光振興プラン　素案

・八戸市観光振興プラン　素案についての委員からの意見

資料の漏れ等ございませんでしょうか。

次に、出席委員についてご報告いたします。委員 12 名中、10 名出席されておりますので、八戸市観光振興審議会規則第５条第２項の規定により、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは早速ですが、審議に入りたいと思います。阿部会長、よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

それでは皆さんおつかれさまです。本日で６回目となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。審議に入りたいと思いますので、次第の 2、将来ビジョンについて事務局より説明をお願いいたします。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】

事務局の下村です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。本日、将来ビジョンについてということで、本振興プランを策定するにあたり、第１回会議の際から、髙橋委員よりビジョン的なものを設定するのかどうかご意見をいただいておりまして、髙橋委員ともご相談させていただき、東北博報堂のクリエイティブディレクターの加勇田さんからご協力をいただきました。秋田県ご出身で、八戸の企業でのお仕事もされたこともあり、八戸にも何度かお越しになったこともある方です。本日ご出席いただいている東北博報堂の種市さんと共に、お二人にはえんぶり期間中の２月 19 日にもお越しいただき、色々と意見を交わしまして、オンライン会議等々もしながら決めさせていただいた事務局案をご提案させていただきたいと思います。本日はオンラインで加勇田さんにもご参加いただく予定ですので、コンセプト等については、加勇田さんからご説明等いただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

【東北博報堂　加勇田氏】

皆様、はじめまして。東北博報堂の加勇田と申します。本日はそちらに伺えず恐縮でございます。さきほどご紹介いただきましたように、何度かオンラインで打合せをさせていただいたり、直接観光課の皆さんとお話しする中で、私の方で決定というよりは、こういった考え方がふさわしいのではないかというアドバイスというか、ご提案を差し上げました。本日はそちらについて、皆さんと共有させていただきたいと思います。画面上に資料を投影しますので、そちらをご覧ください。

観光プランのビジョンといいますか、コンセプトワードについて、ご提案申し上げたいと思います。コンセプトを考えるにあたり、色々な考え方があると思いますので、皆さんがこれまで話し合いをされてきた内容のシートも拝見いたしました。その中で、ポイントがいくつかあって、色々とまとめて話しますと、最終的にはこの二つがコンセプトとして確立されていないと中々難しいのではないかと思いました。

１）汎用性

観光事業にはいろいろな人が関わられていると思いますが、今回特に特に目指すべき姿に「市民の幸福度、参加、共感」というところがあると思います。このあたりについて、観光という目線ばかりに囚われてしまうと、そちらが置いてけぼりになってしまうのではと思いましたので、様々な人がなるべく関われるような、そんな広いワードがやはり必要だと思います。懐の広いワード、あまり決めつけないワードが必要だと思ました。

２）独自性

八戸ならではのものが必要というのは皆さんご理解の通りだと思いますが、他のところと同じことをしても意味がないと思いますので、八戸だからこそできることを私なりにいくつか考えてお持ちしました。観光課の方から将来ビジョンの参考例ということでアイディアが挙がっており、このあたりを八戸らしく言い回しするとどうなるのかなということで、ご覧いただければと思います。

まず、私たちの方で考えた観光資源がいくつかありました。これは皆さんもご承知の通りだと思うのですが、こういった赤字のところが、他（の観光地）とは異なっている線引きだったりするのかなと思いました。普通旅行って、非日常に行くという感覚や文脈で語られることが多いと思いますが、八戸を旅するとは、非日常に行くではなく、異なる空間を旅する、という感覚が近いのかなと思いました。別の日常に行くのではなく、よその日常にお邪魔するという感覚、そういう感覚が八戸の旅の魅力の大きなポイントだったりするのではと思いました。地元の時間を観察する、地元の日常を体感する。何か特別なものを仕立てたり誂えたりするのではなくて、日常そのものが観光資源になっている、天然的なそんな感じが八戸らしさなのかなと思います。そういったことを含め、本日は４方向、コンセプトを考えてきました。

一つ目、Ａ方向です。地元の人が観光客の旅時間に介在するような八戸です。そういった、

一方通行ではない八戸ならではの旅を打ち出すワードとして、あくまでたとえばですが、
１）ふれる旅からふれあう旅へ
こういうことが言えるのではと思いました。普通の旅だと一方的な、観光客目線の旅に偏りがちなのですが、八戸ではその観光客の旅時間に地元の方が介在している。例えば朝市、横丁、いろいろな場面で地元の生活が息づいている場所に訪れられる、えんぶりもそうですよね、地元に密着したお祭り、それを楽しめるようになっている。一方的ではなく、交流してこその新しい体験・発見ということを、このフレーズで言い表したらどうだろうと思いました。続きまして、
２）人とのひと時がときめく旅
美味しいものを食べたり、素敵な風景をスマホで撮影するのもいいのですが、先ほども話したように、地元の人が介在する、そんな旅を楽しんでほしいというのが八戸の思いなのではと感じましたので、そんな時間こそが何よりの思い出になってほしいということで、このようなワードをしたためました。人とか、ひと時とか、ときめくとか、韻を踏んで印象的にワーディングしています。ここまでがＡ方向でした。
続きましてＢ方向になります。八戸の「八」ってやはりすごく印象的なワードだと思います。日本語で八って、末広がりで縁起の良いワードとしてとられることが多いです。また、算用数字の８にしても、方向を変えると無限大というの意味を持ちますので、八をうまく活用できればと考えたワードです。
３）ハハハ八戸
これはどちらかというとキャッチワードのようですが、八戸の魅力はやはり地元の方々と交流することだと思いましたので、行く先々で地元に人たちと関わったり話したりすることで、「ハハハ」と笑う時間が生まれるような、そんな八戸なんじゃないかと思いました。皆さんが今いらっしゃる種差海岸も「ハハハハー」と拝みたくなるような、そんな畏れ多い時間や、幸せな時間を、八という字をもじって「ハハハ」とカタカナでチャーミングに表現しています。こういったものも面白いのではと思ってご提案いたしました。
続きましてＣ方向です。先日えんぶりの時に伺い、観光課の方々とお話しさせていただいた時に、下村さんから「ここはカオスだった。いろいろなものが混沌としているんだ」のようなお話をヒントとしていただきました。いろいろな魅力が複雑に入り混じっていて、まるで横丁のように入り混じっていて、そんな入り混じることによって生まれる濃密さや濃厚さ、そういったものをもたらしてくれる楽しみ、それが八戸の旅の魅力かなと思い考えたワードです。
４）ハマるハチノヘ
知るほど、尋ねるほどに、その日常に入っていけば行くほど、その世界の虜になっていく、思わず迷い込んでしまうような、そんなことを今どきの「ハマる」という言葉で、最近だと

「沼る」とも言うと思うのですが、八戸の「ハ」に合わせて、「ハマるハチノヘ」という言葉で伝えてくのはどうだろうかと思います。あと「ハマ」は、八戸の代表的なコンテンツだと思うのですが、海や港を意図して、「ハマる」ということで動詞化している側面もあるかと思います。
最後の方向性で、D方向です。今、新しい旅の価値みたいなものを〇〇〇ツーリズムという言葉で表し、グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム、ブルーツーリズムなど、そういったワードがたくさんあると思うのですが、八戸発の新しい〇〇〇ツーリズムという言葉を作って、どこよりも先にそれを推進していく。そういったことになるとすごく格好がいいなと思い考えた方向です。
一つは、５）フレンドシップツーリズム
文字通り、フレンドシップは互いに信頼し合ったり助け合ったり楽しみ合ったり繋がりを生んだりとか、そういう関係性だと思います。このような、交流といったものを一つのフックにしたツーリズムワードを作って、誰とでも友好的なスタンスで、地元のいろいろな人たちと交わるような、八戸らしさを表したワードを作って世の中に打って出る、謳っていくのはどうかと思い、考えたワードです。
同じように、　６）ネイティブツーリズム
昔からのあるがままの自然の状態をネイティブという言葉に置き換えて、先ほどもお話ししたのですが、日常に在らざるものではなく、異なる日常にお邪魔する旅、のようなことをこの言葉で表現していくというのはどうだろうかと思いました。こういった言葉を使うことによって、他よりも一歩抜きんでた観光施策を展開していくということが可能になるのではないかと思います。
私からは、この言葉でいくべきだということではなく、こういった方向性、こういったワーディングがあるのではないかなということで、本日ご提案させていただきました。以上となります。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
ありがとうございました。事務局内部でも長い時間議論をしてきまして、今出たキーワードを合わせたものを一つの案として、委員の皆様にご提案いたしました。加勇田さんからお話しいただいた通り、日常そのものが観光資源になっているという八戸ならではの旅の仕方と、あとは、リピーターになっていただきたいし、第１回の審議会でも大矢委員から「リピーター率が結構高いのでは」とのご意見もいただきましたが、そのような期待も踏まえまして、『ハマるハチノヘ』をビジョン、将来の姿として、副題に『ふれる旅からふれあう旅へ』を入れるのはどうかと考えております。また、四角枠の２については、加勇田さんのお話と私からの補足を文字として起こしておりますので、こちらは割愛させていただきます。以上で

す。阿部会長に進行をお戻しいたしますので、よろしくお願いいたします。

【阿部会長】
ビジョンにつきましてキャッチフレーズの部分で事務局から提案がありましたが、皆様からご意見ありましたらお願いいたします。

【高橋委員】
補足としてひとつ、議論の進め方と言いますか、大事なのはやはり施策だと思いますので、3 つの取り組みを強化していくということをずっと議論してきましたので、コピーのワードを選ぶというよりは、施策とのマッチ、これを出すことによって事業者や市民の方々がいいねと思うマッチングだと思うので、案の良しあしも大事だとは思いますが、皆さんと議論してきたビジョン全体と合うかどうかで進めていただければと思います。

【阿部会長】
皆さんから少し印象をお聞きしてもよろしいでしょうか。大矢委員からお願いいたします。

【大矢委員】
率直に、非常に良いキャッチコピーだと思っております。私は八戸を表現するなら、「スルメのような街」と勝手に思っており、噛めば噛むほど味が出る街だと思っています。ただ、噛まないとその味がわからない、なので知れば知るほど面白さや奥深さを感じられるという感覚の「ハマる」はいいなと思いました。副題も、事業者の立場からしても体験観光を作る上で、人との交流を大事にしなければと端的にメッセージとして受け取るところがあるので、こちらも非常に気に入っております。

【河東委員】
クリエイティブの面から、字面と言い、韻と言い、さすがだなと思いました。これが受け入れられるかは、大矢さん、原さん、町田さんなど、地域の方々がどのように感じられるか、腑に落ちるかに委ねたいなという思いがあります。

【原委員】
ハマというのは、地元の方だと海だとすぐにわかるし受け入れやすいのかなという印象です。ふれあう旅へというのは、インバウンドも増えてきている中で、現状、まだまだ事業者さんは積極的というわけではないので、触れ合うということを意識していただければ、観光客にも優しい八戸ということを浸透できるのかなと感じました。

【町田委員】
説明を受けて自分の中で「ハマるハチノヘ」がすとーんときましたし、副題もまさにその通りだと感じました。次のことをキャッチコピーに入れる必要があるかどうかはわからないのですが、何にハマる八戸なのかとか、何に触れ合える街なんだろうかとか、逆にそこに疑問を持ってもらえて導入となるので、キャッチコピーにあえて入れる必要はないのかとか、そこは一つ疑問に思いました。もう一つ、ツーリズムという言葉が出ていましたが、私もよく使っています。産地ライフの美食・美酒ツーリズムという、あえてツアー名をそのように作るのですが、その思いとして、やはり独自のツーリズムを創り上げていくとか、オリジナル性を表現したいという思いもあって使っています。

【村山委員】
今までの議論のエッセンスが入っていて、とても良いかなと思いました。ただ、キャッチコピーと将来ビジョンの整理は必要かなと思っていまして、コピーとしてはとてもいいのですが、よくあるビジョンだともう少し文章的な部分が入っているものが多い気がします。「～を通じて・・・を目指す」のような、一言で言い表せないものを文章で表し、キャッチコピーはこれ、という合わせ技が多かったりします。ただこのキャッチコピーにエッセンスは入っているので、これを聞いてどこを目指すのかは伝わると思います。言葉の定義としてキャッチコピーとビジョンの整理だけ、一つ気になったところでした。以上です。

【吉田委員】
キャッチとしてすごくいいと思います。カタカナと平仮名の組み合わせもあったり、これまでのエッセンスも入っていて、「ハマる」も横丁とかの深みにハマっていくようなイメージもある。方針で言うと「ハマる八戸で～したい」というようなことをどこかで入れた方がいいかなと、キャッチはとても良いので、そこの表現の仕方だと思います。

【渡辺委員】
これまでの議論をうまくワード化していただいたと思います。市民に参加いただく、市民に観光をご理解いただくということ、八戸は何度も訪れることで奥深さがわかるという街でもありますし、それを時間かけてご理解いただくということだと思いますし、レスポンシブルツーリズムの聖地にしていきたいと個人的には思いますので、何度も来て帰る旅という言い方もありますが、八戸を第２のふるさとと思っていただくということを目指していければと思います。ここに末広がりの八だったり、浜というところも掛け合わせながら、さすがクリエイターだなと思います。これがビジョンのキャッチコピーだと思いますので、村山委員の

言った通りこれにある程度思いや説明がないとビジョンになってこないと思いますので、そこは加えて作るべきだと思います。あと、誰向けのワードなのかという整理、市民向けなのか、観光客向けなのか、ハマるハチノヘだと両方に使える気がしますが、誰向けに伝えるメッセージなのかという整理は必要だと思います。

【井上委員】

すごくいいと思います。将来ビジョンですので、ハマるハチノヘのような観光を市・圏域として目指すというメッセージであり、ハマる人を増やすという目的もあると思いますので、それをどのように伝えていくのかというところがポイントだと思います。「ハマるハチノヘ」というキーワードがいろんなところに出て行って、観光客もそれを理解している、受け入れている住民も事業者もそれを理解しているという状態がベストかなと思いますが、キーワードだけが広がっていくということも考えられますので、下にある説明文を同時に市民に伝えていくことが大事だと思います。説明は文章としてあちこちにくっつけていくのか、口頭で誰もが説明できるようにしていくのか、そのあたりの対策は必要かなと考えました。

【阿部会長】

ありがとうございました。地元の人間としても、観光に従事する者としても、すっと入る言葉になっていて、指針になるだろうと思いました。来た方にもそのまま入ると思いましたし、町田委員からツーリズムの話が出ましたが、ハマるハチノヘツーリズムみたいな言葉もいいのかなと思いました。いずれにせよ、良いキャッチコピーだと思いましたので、こちらに繋がる形で進めていければいいと思いました。

【事務局】

加勇田さんの参加のお時間が限られますので、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、最後一言お願いできますでしょうか。

【東北博報堂　加勇田氏】

皆様のお話はごもっともだなと思って聞いておりました。私の方でもキャッチコピーというつもりはあまりなく、むしろエッセンスという形で議題にあげていただき、皆さんにご判断いただく機会になればなと思っておりましたので、無駄をつけずに言葉にしたものが結構ございました。まさに私も同じように考えておりまして、まさにビジョンというものはしっかりと言い切るものだと思っておりましたので、もしもこちらの「ハマるハチノヘ」自体を良いと思っていただいているのであれば、しっかりと言い切ってあげることが優しさかなと思いますので、違う感情を持たれないように、言い切ってあげる。

例えば、「訪れる人も迎える人も、みんながハマるハチノヘ」のように、ここに関してはしっかり言ってあげるというのも一つ方法としてあると思います。
もう一つは、仮に「ハマるハチノヘ」という言葉を活かされるのであれば、ステートメントをちゃんとつけた方がいいと思いますということも、観光課の皆様にもお話をさせていただきました。これにはどういう意味があるのかという、なるべく統一した思いになるように、いわゆるボディーコピーというものをしっかり書いてあげことが必要だと思います。
最後は、基本施策にどうやって落としていくかだと思いますので、皆様が作っているプランにしっかりと「ハマる」という言葉を活かして、上手に展開していけば、いろいろな人にいろいろな思惑を持たれないかなと思います。上手に整理したりワード化したりすることで、今の皆様からいただいたご指摘や宿題といった部分は払拭されるのかなと思いました。以上です。ありがとうございました。

【事務局】
こちらで加勇田さんはご退席となりますので、大変ありがとうございました。続きまして、高橋委員から一言お願いしてよろしいでしょうか。

【高橋委員】
事業者の観点からも意見を頂戴したので、加勇田が申したようにエッセンスとして引用していただければと思います。町田さんからお話しもいただきましたが、具体的にコンテンツとして提供したとき違和感がないのであれば、応用も効いてくると思いますので、その観点でもおさまりがいいのかなと思います。渡辺さんがおっしゃったようにターゲットは市民と訪れる人の双方向を向いているもので、事業者はそちらを下支えするという構造かなと感じましたし、レスポンシブルツーリズムの聖地にしていきたいという言葉にはすごくハッとしましたし、もしかすると施策の中とか、市長のコメントの方にもそういう要素を入れていくと、キャッチではなくビジョンに近い言葉になるのかなと思いました。

【東北博報堂　種市氏】
皆さんでかなり議論を深められているので、一言だけ失礼します。先ほど加勇田からも話させていただきましたが、八戸の魅力は非日常ではなく「異なる日常」を体験することだというところからこの言葉がでてきましたので、皆様からは良い評価をしていただけたので嬉しかったということと、うまく使っていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

ビジョンに関してはこれで進めていくということでよろしくお願いします。続いて、プランについて事前に委員の皆様からいただいた意見等をまとめたものを資料にしてお配りしていましたので、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】
先日、委員の皆様から素案についてご確認いただき、様々なご意見・ご質問をいただいておりましたので、事務局での検討や修正の対応状況と、途中経過ではございますが概要をご報告いたします。参考資料１と観光振興プラン素案をご覧ください。

＜井上委員からのご意見について＞
参考資料④、プランでは第４章３（２）①観光人材の育成[P21]に、大学との連携に触れていただきたいとのご意見をいただきました。事務局としても大事な点だと考えていますので、記載をしたいと考えています。
参考資料⑤、プランでは第 4 章４の三本柱[P22]は、三本柱のタイトルの部分ですが、修正前は「施策の中で特に力を入れる三本柱」と記載していたところですが、「施策の中で優先的に取り組む三本柱」という標記に修正しました。
参考資料⑥と①～③について、誤字脱字の修正を対応させていただきます。

＜大矢委員からのご意見について＞
アメリカ人宿泊者に対して影響を与える要素とアクションプランの反映について、ご意見をいただいております。プラン[P15]SWOT 分析の左上の機会という部分にインバウンドの欄がございますが、「米軍三沢基地が近く、アメリカ人観光客が多い」という記載の部分につきまして、令和４年度の当市のインバウンド宿泊者数が 25,613 人泊、その中で 4,671 人泊がアメリカ人ということで、割合が最も高いです。大矢委員から、三沢市にルートイングランドが今秋オープンするため、当市の宿泊者数にも影響する可能性があるだろうということでご意見をいただいており、さらにそれに対して大矢委員から、三沢基地の関係者を巻き込んだ取り組みをアクションプランで展開したらどうかというご提案をいただきましたので、その部分を検討しております。また、VISIT はちのへにおいても米軍三沢基地との連携を構築しているので、VISIT はちのへとも連携する形で、検討していきたいと考えています。

＜河東委員からのご意見について＞
プラン[P15] ＳＷＯＴ分析の記載について、認知度のエビデンスについてですが、VISIT はちのへ実施の「2023 年度八戸圏域　認知浸透度調査」の結果に基づくものとなっております。認知度があるのは、食のコンテンツは八戸せんべい汁のみと SWOT 分析の部分に記載して

いたのですが、“のみ”という部分の書きぶりを修正したいと思っております。

＜斎藤委員からのご意見＞
主に字句の修正についての意見をいただいておりましたので、修正を対応中でございます。

＜町田委員からのご意見について＞
参考資料①、プラン[P13]記載のアンケート調査の場所に関するご質問でしたが、VISIT はちのへ実施の「はちのへエリア観光アンケート」に拠るもので、8 市町村のホテルや飲食店、観光スポットなど 76 地点が調査対象となっており、その回答数上位 30 地点となっております。ユートリーや種差海岸インフォメーションセンターも含まれております。
続きまして②、来訪時の楽しみについてプラン[P14]、こちらも「はちのへエリア観光アンケート」ですが、この中で横丁や朝市をからめた設問にはなっていないようでした。
③使うワードについて、1～7 について修正の方向で検討してまいりたいと考えています。

＜村山委員からのご意見について＞
資料②、プラン[P16]、4 年間のプランの中での中間目標なども設定するといいと思うという意見につきまして、県でもアクションプランの中で年ごとに設定しているようなので参考にしながら記載を検討してまいります。
資料⑤、アクションプラン策定時期について、まず観光振興プランが 4 月 10 日からパブリックコメントを経て、5 月下旬に最終的に策定を目指しています。アクションプランにつきましては、令和 7 年度の秋ごろまでには策定していきたいと検討しております。
資料⑥、DX 活用について、プランの施策 25 のところでデータについて述べておりますので、この部分でＤＸの書きぶりについて検討したいと考えております。
資料①、③、④の部分についても修正内容を検討してまいります。
以上で説明を終わります。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
加えまして、これから皆さんからご意見も頂戴する予定ですが、一つ、事務局が悩んでいる部分をご相談させていただきます。16 ページ基本方針 2 の観光消費額の拡大の部分で、入込客数と平均旅行消費額を入れていますが、事務局で、観光消費額をいくらで出すか計算を重ねている所です。4 月 10 日のパブリックコメントを完成させる中で、基本方針 1 の KPI には観光消費額を入れたいと考えていますが、自信を持って入れられる数字でなければ、参考データという使い方にするか、悩んでいる所です。また改めて参考になるような事柄がございましたら、お知らせいただければ幸いでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【阿部会長】
先ほど事務局から回答いただきましたが、一点、町田委員のせんべい汁に関するご意見の部分で要確認の箇所は、どうでしたでしょうか。

【事務局】
恐れ入ります、町田委員から口頭でご説明いただいてよろしいでしょうか。

【町田委員】
先ほどの、食のコンテンツで認知度があるのはせんべい汁のみということについて、八戸の食を売ることもプランの柱になっていますが、一番売りたい食はせんべい汁ではなく、例えば、海辺の街で魚介類が豊富であったり、野菜も日本一のものがたくさんあったり、フルーツ王国と呼ばれていたり、そのような産地ならではの食材を生かしたものだと思います。せんべい汁の認知度が高いのはイベントとしての捉え方をすべきで、八戸の食を売り出したいのであれば、そこの住み分けをした食の発信をしていくべきではないかと思います。

【阿部会長】
ありがとうございます。委員の皆様、他にご意見等よろしいでしょうか。

【河東委員】
私も町田委員のお話に同感で、自ら B 級グルメの街というポジショニングをとっていくのはどうだろうかと考えておりました。やはり、高付加価値なものを販売していくとか、外国人に商品を販売するという中で、なにか別なものを探っていくという要素は必要かなと思います。

【阿部会長】
ありがとうございます。事前の意見提出が間に合わなかった委員の方もいらっしゃると思いますが、どうでしょうか。

【高橋委員】
プランの大きなところで、観光ビジネスとしていく、地元の方々を巻き込む、サステナビリティ、この 3 つの方向性がはっきりとわかりやすかったので、良いプランニングができていると思います。先ほどの下村さんの消費額のお話しで、数字の根拠はやはり聞かれるものだと思いますので、根拠の整理は必要だと思います。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
青森県が算出している計算式に則っているので根拠はあるのですが、打ち込むデータや要素が少ないという部分がありますので、繰り返しにはなってしまいますが、感覚の数字では進められないので、引き続きご意見をお待ちしております。

【吉田委員】
プラン策定にあたり、今の観光の現状を踏まえて、こういったプランができているということを市民の皆さんにしっかり伝えてあげることが大事だと思います。秋ごろの策定予定とのことでしたが、ご存知の通り岩手の重点販売時期が秋なので大々的に出していただければと思います。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
策定は９月ごろのイメージですので、吉田委員のおっしゃる通り八戸線を軸に、岩手の重点販売の時期に絡めていきたいと考えておりますし、八戸駅のゲートウェイ化も進めていきたいところです。
話があちこちになってしまいますが、新年度になりましたらパブリックコメントをかけて、5 月にはまた第 1 回の会議を開いてプランを確定して、その際に改めてアクションプランの議論をしていきたいと考えております。そして９月頭には事業を決定し、青森県の重点販売に向けて 5 月中には冬のメニューを作るようにとのお話もいただいておりますので、それには間に合うようにしたいと思います。

【阿部会長】
続いて渡辺委員、お願いしてよろしいでしょうか。

【渡辺委員】
私からは二つです。一つは、18 ページの施策 14 でアウトドアスポーツツーリズムの推進とありますが、可能であればどこかにアドベンチャーツーリズムという言葉を入れていただければと思います。アウトドアツーリズムはアドベンチャーツーリズムを包含できるのですが、スポーツツーリズムという思いがあって入れていると思いますので、ご提案でした。
二つ目、人材育成のところで、トピックスとして、地域がインバウンドの皆さんを迎える上で双方向の交流が必要ですが、今はパスポート保有率も低いですし海外へ出かけたことがない若い人も多いです。ですが、他のところを知って八戸の良さを知るという部分も多いと思うので、教育旅行の観点もあると思いますが、若いうちから海外や他の観光地を知って、八

戸の良さを知る、誇りを持つ、というようなニュアンスを入れていただければと思います。双方向ツーリズムという形ですが、日本は今円安で海外へ行くのも中々難しいですが、アウトバウンドを増やして持続可能にしていくかという観点もあると思いますので、トピックからずれていれば入れる必要はないですが、一つ要望でした。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
現在議会が開会中ですが、予算委員会の中でアドベンチャーツーリズムをやりますと触れさせていただきました。また、村山委員ともお話ししていたのですが、新年度以降には宿泊税についても議論していきたいと考えています。最近は宿泊税を観光教育に使うべきではないかという動きも出てきているのを見ますと、ビジョンなり将来の観光の姿が見えるような形で、八戸らしく使えるよう、議論できればと思います。

【渡辺委員】
宿泊税の検討は、お願いしたいところです。受入れ整備や環境整備の面でも大切な財源だと思いますので、是非こういったところで入れていただいて、取り組んでいただくとありがたいと思います。

【阿部会長】
アドベンチャーツーリズムのお話に関係しますが、基本方針の考え方のところに、「質の高い観光」は、地域の自然や文化、歴史、特産品を活かしながら」と書いていますが、世界文化遺産を構成する是川遺跡があって、今年度から遺跡公園の整備も進めていまして、国宝の合掌土偶も史跡根城もありますので、歴史というところも少し入れていただければいいのかなと思いました。八戸は県内でも歴史が途切れないであるエリアなので、この部分を施策のどこかに入れていただければと思います。

【河東委員】
20 ページにガイドライン JSTS-D について、これがここにあるだけになっていて、市の文化的サステナビリティという項目が他に及んでいなくて、26 ページにはえんぶり、24 ページには文人墨客や是川遺跡であるとか、そういった文化面を反映して、ここにあるだけではなく、中に入れるような形で記載いただければよろしいかなと思いました。

【阿部会長】
DX もこれと関係すると思うのですが、25 ページの施策の展開③の中にある OTA の活用の推進という部分を、ここをデジタルの活用や DX の推進のような文脈にしていただければい

いのかなと思いました。

【村山委員】
追加でいくつかあるのですが、一つ目、加勇田さんおっしゃっていましたが、ビジョンを掲げると施策との連動が気になってきまして、「ふれる旅からふれあう旅へ」だと、人や人材育成がキーワードで、人が介在すニュアンスを受けますが、施策の中にはそのような部分があまり見えなので、これを組み込んだ時に施策がフィットするかは表現の問題だと思うが、この状態を目指すためにはこのような施策なんだという、整合性を取れればいいかなと思ました。
二つ目は、16 ページの基本方針 1 のところで、確認ですが、はっちと八食センターのデータだけをベースにすると小さくなってしまうのですか？

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
小さいといいますか、2 ヶ所だけでいいのか、というところです。

【村山委員】
全国の基準とは違うやり方の方が良さそうということでしょうか。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
そもそも観光庁が進めている都道府県の入込みの要素が二つしかないということで、平均消費額と入込客数が出てくるんですが、青森県は 9 ヵ所でとっているので、2 ヵ所で取ったものだと説得力という面でどうなんだろうというところです。ただ、この 2 ヵ所というのが VISIT はちのへで取ったものよりも消費額が低くて、もう少し精査が必要だと思っています。

【村山委員】
基本方針の表現が、稼ぐ、消費額と言っているので、参考で出すには基本方針と食い違う感じがあるので、基本方針の言葉を活かすのであれば、消費額は出した方が良いと思います。レスポンシブルツーリズムや持続可能な観光といった時に、量だけ追い続けることはできないので、消費額にフォーカスするというのは量から質へという強いメッセージ性もあると思いますので、今のままの基本方針でいくのであれば、数字を出した方がいいと思いました。数字を出すときには、基本的には根拠が明確であればいいと思います。先ほどの、2 か所しか使わないというのに違和感があるのであれば、それより硬い数字が出せる見込みや確信があれば、それを根拠にすればいいと思います。それを他の県や市と比較したときに「多いのではないか？」となっても、根拠が明確なので、国がやっている調査より精度がいいですと

言いきれれば、いいのかなと思います。このように感想を持ちました。
あとは、今回役割の部分が初めて 26 ページに始めて入って良いと思ったのですが、八戸市と VISIT はちのへと地域の事業者の領域はその通りで、商工会議所を入れてもいいのではと思いました。今後、受け入れ環境整備や稼ぐ等、ビジネス寄りの話になるとグリップがきいているのは商工会議所かなと思いますので、VISIT はちのへと商工会議所が連携するのであればその文言を入れたり、あるいはプレイヤーとして役割があれば、登場をさせてもいいのではないかなと思います。商工会議所も何らかの役割を担うと思うので、あったらいいのかなと思いました。
また、基本方針 2 の持続可能な観光、JSTS-D を進めるときの主体が市なのか、VISIT はちのへなのか、基本方針 2 という大上段に入っている部分なので、役割分担の中で触れてもいいのかと思います。
最後、市民の役割をみると、市民の方がこれを読むと、私は市民ではないので立場を変えてみてみましたが、やや押し付けられてる感があるかなと感じました。なので 21 ページの基本方針 3、観光振興による市民の幸福度向上の中で、観光貢献度の可視化というように、観光がどの程度地域に役立っているか、観光によって生活がどのように良くなっているかなど、生活への観光の影響度合いが一つの施策として入っているとわかりますが、その点でバランスをとる必要性を感じました。以上です。

【阿部会長】
他に、委員の皆様、よろしいでしょうか。

【事務局】
人材育成の部分で、町田委員からお考えを伺えますでしょうか。

【町田委員】
キャッチフレーズができて、施策ができて、その流れで観光人材の育成といった時に、市民の役割にも繋がっていくと思うのですが、市民全員が観光客を受け入れられるような意識醸成をしていくとか、そういった面もあるのではないかと思いました。実際ずっと観光に携わっていて思うのが、地域資源を商品化して稼ぐという人材、事業者さんが中々いないです。そういう人たちを育てていこうという意識があまり語られてこなかったのかなと思いますので、まずはそういう人たちを育成するために、地域に住む事業者さん全体が受け入れ側なのだという意識醸成やボトムアップを図ることが必要なのではと常々感じていました。そういったことを人材育成の部分で触れていただきたいと思いましたし、先ほど村山委員もおっしゃったように、役割の部分にも繋がると思います。そういった意味合いでした。

【事務局】
ありがとうございます。

【阿部会長】
ありがとうございます。では、プランについてはこれでよろしいでしょうか。
それでは次第の部分で、他に皆様からよろしいでしょうか。無いようですので、進行を事務局にお戻しいたします。

【工藤観光文化スポーツ部長】
委員の皆様、1 年間にわたりどうもありがとうございました。任期はあと 1 年ございますので、引き続き、先ほど下村が申し上げましたが、プランが確定したらアクションプランの検討に移らせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、冒頭にお話しましたが、3 月 21 日に市長の方から、皆さんの意見も反映させたプランの概要を素案という形で一旦公表させていただき、4 月 10 日のパブリックコメントで市民の皆さんのご意見を聞いた上で確定となります。ここからアクションプランでディティールを作っていって、これで皆の思いを乗せていこうというものにしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。ひとまず、1 年間大変ありがとうございました。以上でございます。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】
素案と言いましてもこの冊子を出すのではなく、ビジョンと方針、3 つの柱を市長から紹介させていただきます。

【事務局】
皆様、会議の進行にご協力していただき、大変ありがとうございました。今年度の会議は本日で終了となりますが、先ほど部長からもございました通り、今後のスケジュールについてお知らせいたします。新年度の 4 月 10 日にパブリックコメントの実施を予定、その後寄せられた意見を取りまとめまして、案を修正いたします。修正後、5 月下旬に委員の皆様にお集まりいただき、最終案をご確認いただいた上でプランの完成になります。日程につきましては改めて事務局よりご案内いたしますので、その際はご協力いただければ幸いに存じます。以上をもちまして、第 6 回八戸市観光振興審議会を終了いたします。皆様、長期間にわたり大変ありがとうございました。